

平成 24 年 1 月 31 日

各位

会社名 株式会社 新生銀行
 代表者名 代表取締役社長 当麻 茂樹
 (コード番号 : 8303 東証第一部)

平成 24 年 3 月期 第 3 四半期決算および通期業績予想修正について ～コア業務は堅調に推移、収益力の安定化に向けた更なる対応～

当行は、中期経営計画で掲げる「収益力の安定化」を早期に実現すべく、昨年来、各種施策に取り組んでまいりました。同計画の 2 年度目となる当年度、業績のダウンスайдリスクを払拭する措置を講ずることと致しました。具体的には、当第 3 四半期末において保守的に個別貸倒引当金を繰入れ、かつ、コンシューマーファイナンス子会社において利息返還損失引当金の積み増しを実施いたしました。さらに、第 4 四半期末には、将来にわたる、所謂過払リスクから決別するため、利息返還損失引当金につき引当アプローチの見直しを踏まえたライフタイムの引当を見込んでおります。

これにより、当行が中期経営計画で掲げている、来年度の連結当期純利益 510 億円、キャッシュベース¹ 連結当期純利益 600 億円の目標達成がより確実なものになり、収益力の安定化に繋がるものと考えております。

①平成 24 年 3 月期 第 3 四半期決算：

当行の、平成 24 年 3 月期第 3 四半期(9 ヶ月)の連結四半期純利益は 206 億円、キャッシュベース連結四半期純利益¹は 278 億円、単体四半期純利益は 9 億円となりました。

業績

(単位:億円、%)

	平成24年3月期 第3四半期(9か月)	平成23年3月期 第3四半期(9か月)	増減率
業務粗利益	1,550	2,421	△36.0%
経費	955	1,084	△11.9%
実質業務純益	594	1,336	△55.5%
与信関連費用	119	493	△75.8%
四半期純利益	206	640	△67.8%
キャッシュベース四半期純利益 ¹	278	726	△61.7%

- **業務粗利益**は、コア業務は堅調に推移したものの、ノンコア資産などの削減ならびにコンシューマーファイナンス業務の貸出残高の減少による資金利益の減少と、金融市場の低迷による有価証券の減損や、前年同期に計上した資本性証券の買戻益などが当第 3 四半期にはなかったことによる非資金利益の減少などから、前年同期の 2,421 億円から 1,550 億円に減少。
- **経費**は、各業務分野における徹底した合理化の継続により人件費、物件費ともに削減した結果、前年同期の 1,084 億円から 955 億円へ減少。
- **与信関連費用**²は、スペシャルティファイナンスにおいて、188 億円の個別貸倒引当金の繰入を行う一方で、172 億円の大口の取崩益もあって、与信関連費用は 119 億円となり、前年同期の 493 億円から大幅に減少。
- **連結四半期純利益**は、業務粗利益が減少したことや、コンシューマーファイナンス子会社において第 3 四半期末に利息返還損失引当金を 110 億円追加繰入したことにより、前年同期の 640 億円から減少し、当第 3 四半期は 206 億円。
- **単体四半期純利益**は、不透明な国内外の経済環境を踏まえ、上述の貸倒引当金の繰入を実施したことにより、前年同期の 121 億円から 9 億円に減少。
- **総資産**は主に国債の減少から前期末比減少し 8 兆 6,045 億円となったが、貸出金はコンシューマーファイナンス子会社で減少する中、法人向け貸出、住宅ローンなどを着実に実行したことから、3 月末以降の減少幅は縮小し、4 兆 765 億円。

資本および流動性

- 自己資本比率は、内部留保の着実な積上げに加え、リスクアセットの最適化への継続的な取り組みと貸出資産の減少により、リスクアセットが 2011 年 3 月末の 6.6 兆円から 6.2 兆円に減少したことから、連結自己資本比率 10.18%、Tier I 比率 8.69%と、それぞれ 0.42 ポイント、0.93 ポイント改善。
- 不良債権比率は、不良債権残高が若干増加した結果、2011 年 3 月末から 0.33 ポイント上昇し 7.11%。ただし、保全率は 96.7%と業界有数の高い水準を維持。
- 流動性は十分に確保し、平成 23 年 12 月末現在の手元流動性は約 1.3 兆円と引き続き高い水準。

②平成 24 年 3 月期 通期業績予想：

通期予想を連結当期純利益 50 億円～90 億円、キャッシュベース連結当期純利益 150 億円～190 億円にそれぞれ下方修正いたしました。これは、第 4 四半期末に、同四半期の利息返還動向など精査の上、既述の引当を見込むことなどによるものです。現時点では試算段階であるため、連結当期純利益予想 50 億円～90 億円とレンジでの開示とさせていただきます。

¹ 純利益(または純損失)からのれんに係る償却額及び企業結合に伴う無形固定資産償却とそれに伴う繰延税金負債取崩を除いたもの

² 今年度から「金融商品会計に関する実務指針」(会計制度委員会報告第 14 号 2011 年 3 月 29 日)を適用することとともない、与信関連費用に償却債権取立益を合算。ただし、過去への遡及はせず。

平成 24 年 3 月期第 3 四半期業績の要点

(単位: 億円、%)

	平成24年3月期 第3四半期(9か月)	平成23年3月期 第3四半期(9か月)	増減率
業務粗利益	1,550	2,421	△36.0%
経費	955	1,084	△11.9%
経費率	61.6%	44.8%	-
実質業務純益	594	1,336	△55.5%
与信関連費用	119	493	△75.8%
四半期純利益	206	640	△67.8%
キャッシュベース四半期純利益 ¹	278	726	△61.7%
1株当たり四半期純利益	7.77円	32.63円	△76.2%
同キャッシュベース(円)	10.48円	36.97円	△71.6%
ROE(年換算ベース)	4.9%	17.8%	-
キャッシュベースROE(年換算ベース) ²	7.4%	23.6%	-
ROA(年換算ベース)	0.3%	0.8%	-
キャッシュベースROA(年換算ベース)	0.4%	0.9%	-
(単体)業務粗利益	593	914	△35.1%
(単体)経費	448	457	△1.8%
(単体)実質業務純益	144	457	△68.4%
(単体)与信関連費用	86	300	△71.2%
(単体)四半期純利益	9	121	△92.2%
	平成23年12月末	平成23年3月末	増減率
総資産	86,045	102,315	△15.9%
リスクアセット	62,237	66,537	△6.5%
1株当たり純資産(円)	214.66円	205.83円	4.3%
自己資本比率(バーゼルII、F-IRB)	10.18%	9.76%	0.42ポイント
Tier I 比率	8.69%	7.76%	0.93ポイント
金融再生法上の開示不良債権比率(単体)	7.11%	6.78%	0.33ポイント
金融再生法上の開示不良債権の保全率(単体) ³	96.7%	96.8%	-

¹ 四半期純利益からのれんに係る償却・減損額及び企業結合に伴う無形固定資産償却・減損額とそれに伴う繰延税金負債取崩額を除いたもの

² 従来、分母については、(期首自己資本(純資産-新株予約権-少数株主持分)+期末自己資本)／2として計算していたが、「キャッシュベース」という観点をより反映させることとし、今回の開示より(期首の(自己資本-のれん-企業結合に伴う無形資産(繰延税金負債控除後))+期末の同金額)／2として計算

³ 金融再生法上の開示不良債権の保全率 = 貸倒引当金および担保・保証等による保全額の合計 / 開示不良債権額

当四半期決算の詳細については、以下当行 URL(「決算・財務情報」メニューの中の「四半期決算情報」)をご覧ください。

URL: http://www.shinseibank.com/investors/ir/financial_info/quarterly_results/index.html

以上